

令和 7 年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和 8 年 3 月 2 日  
江別市立大麻東中学校

1 本年度の重点目標

学んだことを生かし、夢の実現に向けて行動する生徒の育成

2 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
経営方針の重点	(1)生徒が主役となり、考えを深め、学んだことを実生活等につなげられる場を、教育課程の中に意図的に設け教育活動を推進している。	A	子どもたちが自ら課題を見つけ、他者と協働し、ICT や外部の人的・物的リソースを積極的に活用した学習活動を拡充し、学んだ知識を実生活の具体的な場面で活用する機会をより意図的に設定したい。そのことにより、各教科、特別活動、総合的な学習の時間、学校行事等、全教育課程で生徒主体の学びをさらに深めていく。また、生徒の自己評価と振り返りの場を充実させ、保護者や地域へその成果を可視化して共有することで、学校全体での教育活動の質のさらなる向上を目指したい。	A	A
	(2)懇談機会や通信等を用いて、生徒に身に付けたい力について発信をしている。	A	保護者アンケートからは、「今年度の重点目標や学校の活動内容を知ったり、学校と家庭・地域との連携は大切」という肯定的回答は 99%となっており、ニーズの高さが伺える。「身に付けたい力」の共有にとどまらず、生徒が主役となって考えを深め、学んだことを実生活につなげている「具体的な姿や成果」を、懇談の機会、HP、通信等で積極的に発信していきたい。これにより、保護者、地域との共通理解を一層深め、生徒の成長を様々な角度から支える協力体制を強化し、教育活動の質を向上させていく。	A	A
教育課程	(3)反復や繰り返しに加えて、活用や発揮する場面を設定して、より確かな知識・技能の習得を目指している。	A	【肯定的な回答 100%】 「より確かな知識・技能」の定着に重点を置いた授業実践を進めている。反復から応用への段階的な指導として、反復のみの学習だけではなく、学んだ知識を様々な場面で活用できるよう、授業内に「活用・発揮する場面」を意図的に設定していく。また、基礎知識の補充や定着を効率的に行うためにデジタル教材、ICT ツール(AI ドリル・スマイルネクスト等)を引き続き活用する。 また、授業開始時に、ペアでのアウトプットを伴う短時間の復習、前時内容の想起により、定着を確実にするスタイルを継続・強化していく。	A	A

学習指導	(4)発話や書くことなど、考えを共有する場面を位置付けた授業を展開し、思考・判断・表現の力の向上を目指している。	A	【肯定的な回答 100%】 「思考・判断・表現力」の向上に向け、生徒どうしの共有の場を設ける取り組みが着実に成果を上げている。各教科での対話やグループ活動、実験結果による考察等、個の思考を他者と共有する指導が定着されており、生徒どうしが考えを擦り合わせるような場面が授業で見られる。今後は、「個の考えから協働へ」の流れを徹底し、9教科の特性に応じたアウトプットの機会を設け、指導のさらなる充実を図りたい。	A	A
	(5)教科学習への取り組み方を理解させ、教材の準備を通して、生徒が主体的に学ぶ力を育もうとしている。	A	【肯定的な回答 100%】 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、全校で継続的な授業改善を行っており、生徒に自律的に学ぶ土台が築けるよう、ICTによる振り返りや、振り返りシートを活用している。引き続き、学習者用端末、振り返りシート等により、生徒自身が「自分の学習がどこまで進んでいるか（進捗状況）」把握でき、学習が将来の進路実現に繋がるといった実感、みんなで力を合わせて新しいアイデアを生み出す体験、授業が楽しい・わかるといった経験を積ませたい。	A	A
	(6)生徒が考えを整理したり深めたりするために、有効なアプリ等の活用している（試みている）。	B	【肯定的な回答 76%】 オクリンク、スマイルネクスト、ミライシード、みんなの学習クラブ...と、日常の学習活動の中で ICT 機器の利活用は着実に進んでいるものの、教員間によって意識の差がある。生徒たちは小学校1年生から学習者用端末を使いこなしており、小学校段階で何をどのように使いこなしてきたのか、学年別の到達スキルはどうなっているのか、小中間で共有する必要性がある。また、各種研修への参加、全体研修での体験、先生方の有効な事例の共有、担当係からの情報提供等、子どもの活動時間を生み出すための道具としての利活用方法を教職員どうしお互いさらに学んでいきたい。	A	A
	(7)個別の教育的支援を必要とする生徒の指導・支援に向けて、視覚的な支援やスモールステップによる指導、肯定的・好意的な働きかけなど、特別支援教育の視点を踏まえた指導・支援を行っている。	A	【肯定的な回答 100%】 市から支援員、登校サポーターが3名配置され、別室登校(校内教育支援センター)生徒や特別支援学級に対するサポートが手厚く行われている。各教科では、特別支援教育の視点に基づき、視覚的支援やスモールステップ、肯定的働きかけを実践している様子が伺える。デジタル教科書の活用で指導が効率化され、個別の気づきを促す働きかけや、生徒同士の教え合いを通じて知識や技能差を補い、教室全体の底上げを図る実践もみられる。また、外部機関との連携や進学において、特支 Co を中心に組織的に取り組んでおり、引き続き体制を維持していきたい。	A	A
生徒指導	(8)自他の命や人権の大切さについて感じ取る心情を養う指導・支援を学年や部活動担当間等で協力しながら継続的に行っている。	A	【肯定的な回答 100%】 引き続き、生徒個々や集団の課題を把握し、課題解決に向かう組織体制を維持、強化していきたい。教員が一人だけで抱え込まず、教職員間の情報共有を大切にし、些細な出来事を含め、各教科担と担任、学年、部活動担当間等、学校全体で継続的に組織的に対応する体制をさらに強化することを意識する。	A	A

生徒指導	(9)生徒同士が考えを交流する場面や何かを成し遂げる活動を通して、他者とのよりよい関係づくりについて考えさせている。	A	<p>【肯定的な回答 100%】</p> <p>生徒どうしの良好な関係づくりは着実に進んでいる。現在の良好な人間関係を基盤とし、教育課程全体、学級・学年づくり、部活動指導の場面を通して、生徒が主体的に協働し、達成感を味わえる機会の工夫、設定を続けていきたい。特に、生徒が主役となるよう、学校祭や学年委員会活動等、生徒が自ら計画・運営し、他者と協働して何かを成し遂げる活動を工夫・設定したい。また、班活動や対話の場面において、自分の言葉に責任を持って発言し、他者とのよりよい関係を築くための具体的なコミュニケーションスキルについても指導を続けていく。</p>	A	A
	(10)心身の健康の大切さを指導し、通信の活用など、必要な働きかけを行っている。	A	<p>【肯定的な回答 95%】</p> <p>保健だよりの活用や日常的な声掛けにより、心身の健康指導や家庭との連携が意識的に行われている。心身の健康については、学習面、家庭環境、友人関係等、様々な背景が影響するため、気になる生徒の情報を担任、養護教諭をはじめ、教職員全体で多角的に情報共有、情報交換をしながら適切に対応していく。</p>	A	A
	(11)進んで笑顔で挨拶するとともに、必要な場面で、生徒に指導している。	A	<p>【肯定的な回答 100%】</p> <p>挨拶については、日常的な指導が意識化され実践されていると感じられる。保護者アンケートでも生徒の挨拶の良さが高く評価されている。こういった外部の声を生徒に届けると同時に、生徒どうしの相互評価にも取り組みながら、自発的に気持ちの良い挨拶ができる生徒を育てたい。また、教職員も大人として、来校者、教職員どうしでも気持ちの良い挨拶を引き続き心がけたい。</p>	A	A
小中一貫教育	小中一貫教育の推進組織における各部の活動において、計画にしたがって取組がなされている。	A	<p>【肯定的な回答 95%】</p> <p>「この子たちならもっとできるのに...」「この子たちにはハードル高すぎる...」と小学校の教員に言わせないことが肝要である。小学校の取り組みや活動内容、児童の実態について理解するために、小学生を招き入れる機会、小学校にどんどん足を運ぶ機会を増やし、「中学校が小学校を知ることが大切」という意識を高めたい。また、組織体制の改善については、3年次を終えるにあたり、次年度計画の検討事項としたい。</p>	A	A
その他	コアチームやプロジェクトチームの提案を着実に進め、少しずつ業務改善がなされていると思う。	B	<p>【肯定的な回答 67%】</p> <p>時間外在校時間の平均は前年度の同時期と比べ「40.5時間⇒37.5時間」と短縮されている。職員の入り替わりがあるものの、現在の教職員の意識化が進んでいると考えられる。現在、子どもと向き合う時間の確保、働きやすい職場環境づくりに向けて業務改善に関する意見・アイデア集約し、コアチームで検討している。主な意見からは、日課・時程や教育課程の工夫、部活動ガイドラインの遵守、業務内容の平準化、PTA活動への負担軽減、AIの校務利用等を中心に業務改善を進めていく方向である。</p>	A	A

【評価項目の設定、達成状況及び改善の方策に関する学校関係者評価委員の意見】

- ・各評価項目において自己評価は適正に評価されており、改善策も適正である。特に、自己評価が客観的なデータ（アンケート結果や在校時間）に基づいており、課題を真摯に捉えた適切な評価であると判断する。
- ・個人用端末の利活用が進んでいるが、持ち帰り時の使い方のルール徹底は課題ではないだろうか。また、生徒の AI 利用についても、ネット上や SNS でのトラブルが起こっている現状では、慎重に検討する必要があるのではないか。
- ・学校の働き方改革、業務の適正化が進んでいる様子が見える。在校時間の削減に焦点をあてることは必要ではあるが、そのことが、教職員のやりがい搾取や働きにくさにつながらないか気になるところである。AI の校務利用や PTA 活動の負担軽減等、「子どもと向き合う時間」を確保するためのさらなる環境整備を地域としても注視し、協力していきたい。
- ・学校運営委員会、地域、家庭と連携した活動として、制服リサイクル事業を軌道に乗せたい。PR 方法や地域が窓口となる取り組み方について検討、熟議を続けていきたい。
- ・各項目で示された改善策が着実に実行されるよう教育活動を進めてほしい。また、学校運営委員としても、可能な限りの支援を続けていきたい。

【評点】 A：よい    B：おおむねよい    C：ややよくない    D：よくない